

(注) 2 ページ以降の R 2 の数値は確定値ではありません。

男女共同参画に関する市民意識調査結果 (概要)

1. 調査の目的

平成 27 年度の意識調査以降、男女共同参画社会に関する市民の意識と実態がどのように変化してきているか把握するとともに、令和 3 年度に予定している第 3 次男女共同参画計画の策定に向けて今後の施策を検討するための基礎資料とする。

2. 調査方法

- (1) 鹿児島市住民基本台帳から 18 歳以上の男女 3,000 人 (各 1,500 人) を無作為抽出
- (2) 令和 2 年 8 月 7 日 (金) ~ 令和 2 年 9 月 11 日 (金)
- (3) 調査票の郵送配布・郵送または WEB 方式による回収

3. 調査項目

1. 回答者の属性	
F1	性別
F2	年齢
F3	職業
F4	結婚の有無
F5	夫婦の職業の有無
F6	子どもの有無
2. 男女平等意識について	
問1	各分野の男女の地位の平等感
問2	社会全体で見た場合の男女の地位の平等感
問3	男女が平等でない原因
問4	男女が平等になるために重要なこと
問5	選択的夫婦別姓に対する考え
3. 家庭生活について	
問6	性別役割分担に対する考え ★
問7	性別役割分担に賛成の理由
問8	男性が家事・育児をすることに対する考え
問9	高齢者介護の担い手の多くが女性であることに対する考え
問10	(1) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 (希望) (2) 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度 (現状)
問11	男女が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加するために必要なこと
4. 社会活動、地域活動への参加・参画について	
問12	地域活動への参加状況
問13	女性が社会活動・地域活動に参画していく上で必要なこと
5. 就労について	
問14	(結婚、子育てを踏まえた) 女性の仕事に対する考え (①理想 ②現実)
問15	問14 (現実) で「仕事は (一時的に) やめる・もたない」を選んだ理由
問16	職場での男女格差の有無
問17	社会全体で見た場合の女性の働きやすさ
問18	女性が働きにくいと思う理由
問19	女性リーダーが増えることの影響

6. 教育について	
問20	子どもの育て方
問21	子どもに期待する進学先 ※新規 (①女の子 ②男の子)
問22	男女共同参画社会の実現のために学校教育の場で必要なこと
7. 女性の政策参画について	
問23	政策・方針を決める際の女性の意見の反映度
問24	政策・方針決定過程への女性参画が低い理由
問25	女性の意見を政治や行政に反映させるために効果的なこと
8. 人権・暴力について	
問26	DV に対する考え方 ★
問27	(1) 配偶者等からの DV 被害経験の有無 (2) ①配偶者等からの DV により命の危険を感じたことの有無 (2) ②この1年間の配偶者からの DV の有無
問28	10代から20代の頃の交際相手の有無
問29	(1) 交際相手からの DV 被害経験の有無 (2) 交際相手からの DV により命の危険を感じたことの有無
問30	DV にあった際の相談の有無
問31	DV にあった際に相談しなかった理由
問32	DV 防止に必要なこと
9. 男女共同参画に関する用語について	
問33	用語の認知度 (13項目) ★
10. 行政について	
問34	男女共同参画社会形成のために行政が力を入れるべきこと
11. 自由意見	
問35	男女共同参画に対する意見・考え

★ 第2次計画目標指標

4. 回収結果

- (1) 有効回収数 1,178 人 (調査票: 1,000 人、WEB: 178 人)
- (2) 有効回収率 39.3%

5. 調査結果（一部抜粋）

2. 男女平等意識について

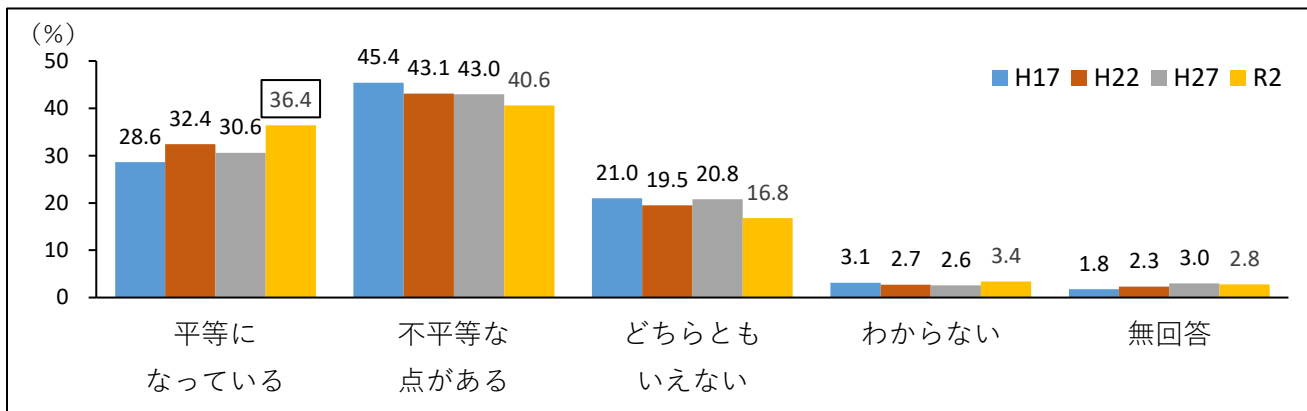
（問1）各分野の男女の地位の平等感

平等感が最も高いのは「①家庭で」36.4%、次いで「③学校（学校教育）の中で」28.1%、「②職場で」23.0%となっている。

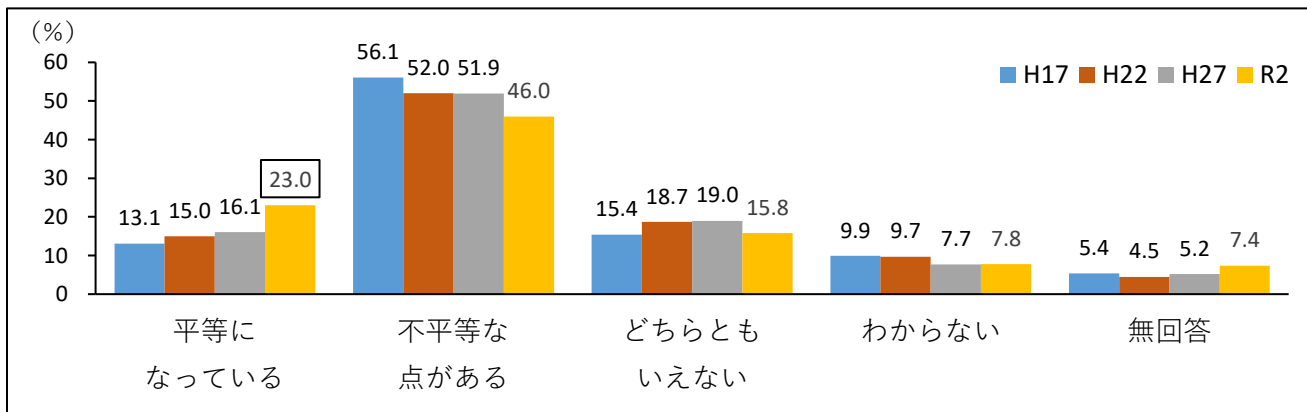
また、不平等感が最も高いのは「⑦社会通念や習慣、しきたりの中で」71.8%、次いで「⑤政治の場で」54.8%、「④地域社会の中で」46.3%となっている。

「③学校（学校教育）の中で」においては、平等感が不平等感を上回っているが、その他の分野では不平等感が上回っている。特に、「⑦社会通念や習慣、しきたりの中で」においては60ポイント以上の差があり、平成17年の調査以降、改善が見られない。

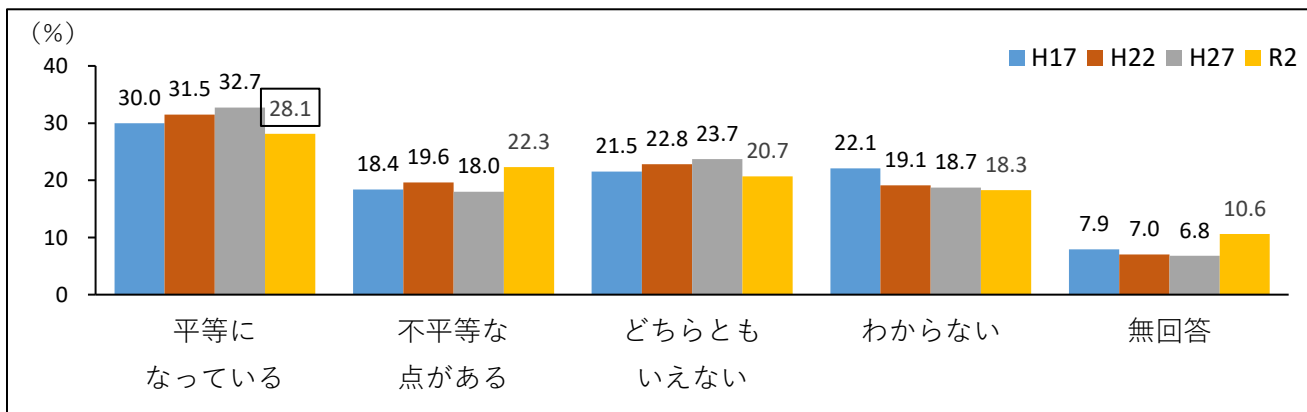
①家庭で



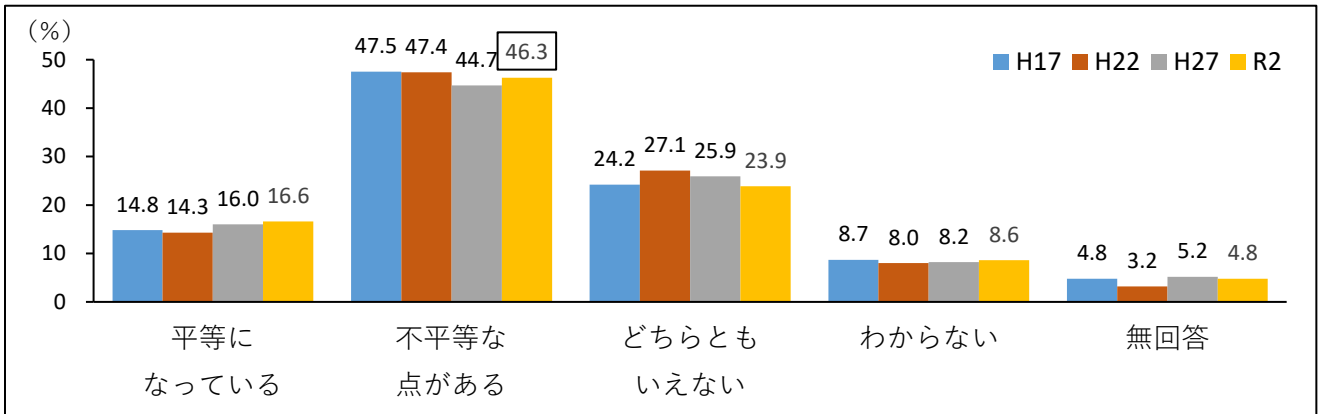
②職場で



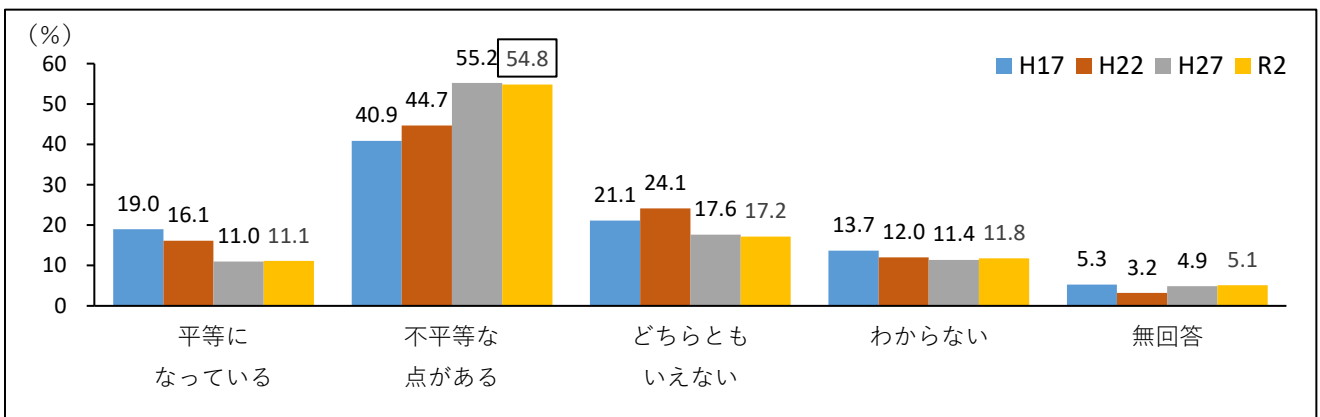
③学校（学校教育）の中で



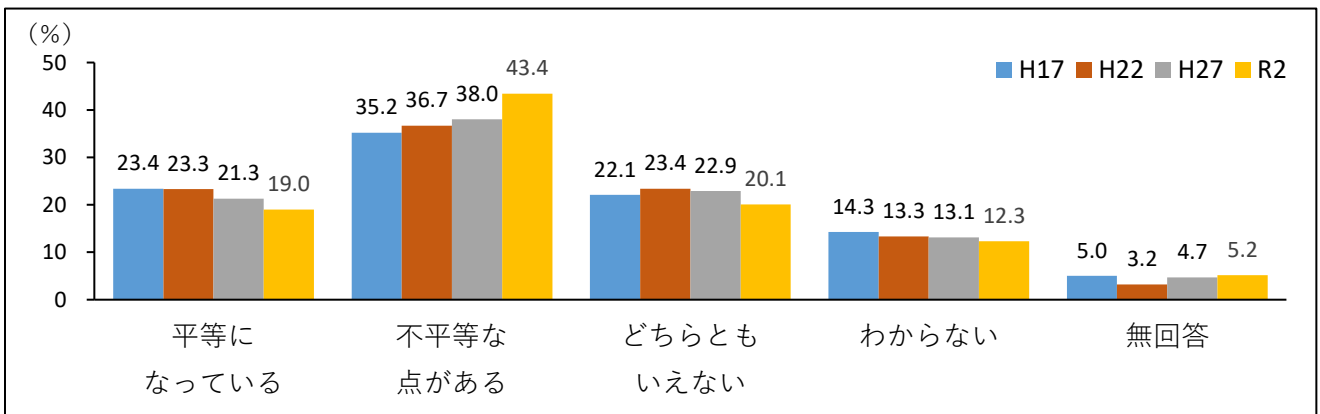
④地域社会の中で



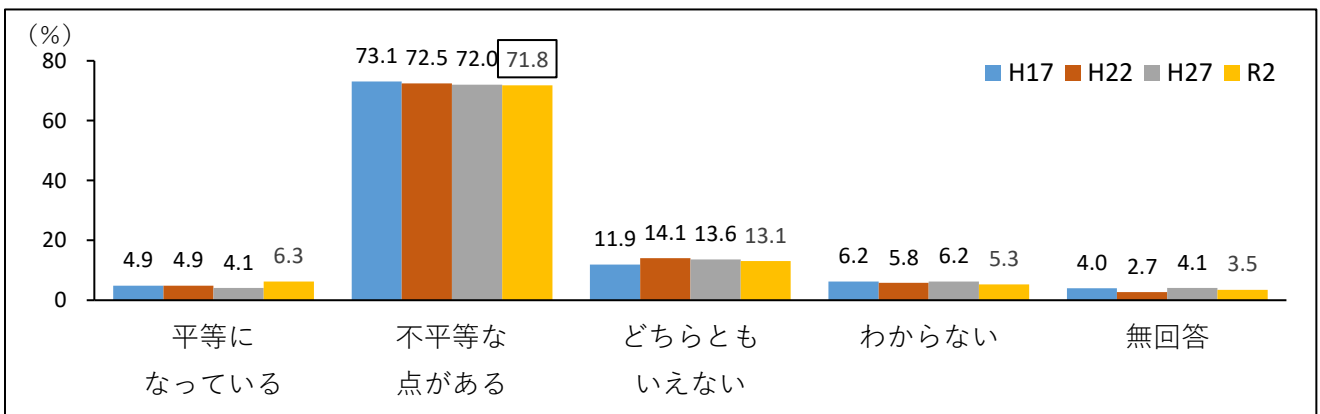
⑤政治の場で



⑥法律や制度の上で



⑦社会通念や慣習、しきたりの中で



(問5) 選択的夫婦別姓・・・同姓か別姓かを選べるようにすることについて

選択的夫婦別姓に対する考えについては、「どちらともいえない」が最も多く、次いで「そうすべきだと思う」となっている。

「そうすべきでない」という回答は、前回調査と比較すると12.4ポイント下回っている。

性別で見ると、「そうすべきでない」では女性が男性を10.6ポイント下回り、「どちらともいえない」では女性が男性を10.2ポイント上回っている。

年代別で見ると、女性の10代・20代、男性の10代・30代では「そうすべきだと思う」が5割を超えている。また、男性の70歳以上では「そうすべきでない」の割合が他の年代に比べ高くなっている。

上位1項目

(%)

調査年	そうすべきだと思う	そうすべきでない	どちらともいえない	わからない	無回答
H17	26.6	32.1	33.2	3.9	4.2
H22	29.0	28.5	34.2	6.5	1.8
H27	29.5	27.9	38.6	3.6	0.5
R2	34.6	15.5	41.6	6.8	1.5

上位1項目

(%)

R2調査		そうすべきだと思う	そうすべきでない	どちらともいえない	わからない	無回答
性・年代別	女性計	34.4	11.2	45.5	7.4	1.5
	10代	77.8	11.1	0.0	0.0	11.1
	20代	56.7	3.3	30.0	10.0	0.0
	30代	39.7	5.1	46.2	7.7	1.3
	40代	41.7	9.2	40.8	7.5	0.8
	50代	35.9	8.5	50.4	4.3	0.9
	60代	23.6	14.3	53.6	7.1	1.4
	70歳以上	19.0	19.0	50.0	9.0	3.0
	男性計	36.0	21.8	35.3	5.6	1.2
	10代	55.6	0.0	33.3	11.1	0.0
	20代	42.9	14.3	31.4	11.4	0.0
	30代	55.8	11.5	28.8	3.8	0.0
	40代	28.3	17.0	45.3	9.4	0.0
	50代	46.3	13.4	32.9	7.3	0.0
	60代	33.3	21.4	42.7	1.7	0.9
	70歳以上	21.7	40.2	28.3	5.4	4.3

3. 家庭生活について

(問6) 性別役割分担意識・・・「男性は仕事、女性は家庭」という考え方について

※ 2次計画の指標

目標値（削減目標）：『賛成』（「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が30%

性別役割分担意識に『賛成』の割合が20.6%となり、目標を達成した。

性別で見ると、男女ともに『賛成』の割合は30%を下回っているが、女性より男性の方が11.2ポイント高く、性別による役割の固定意識が高いことがうかがえる。

上位1項目

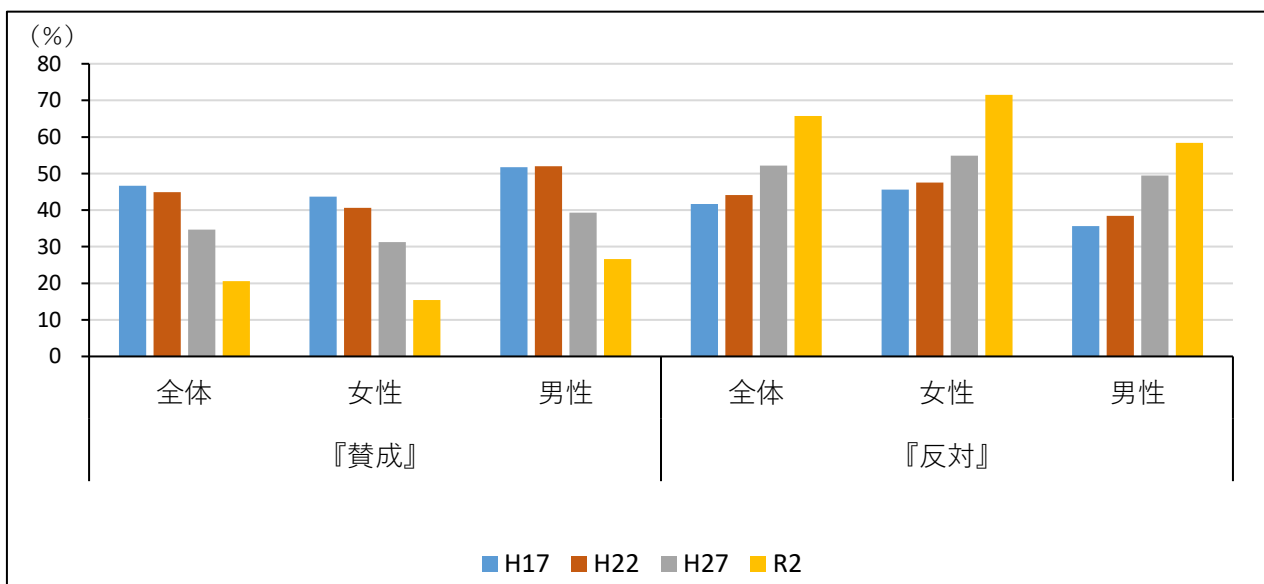
(%)

調査年	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
H17	9.8	36.9	29.7	12.0	9.4	2.2
H22	6.9	38.0	30.7	13.4	9.9	1.1
H27	5.2	29.5	36.4	15.8	12.1	1.1
R2	2.3	18.3	36.5	29.2	12.6	1.1

『賛成』・『反対』高い方の値

(%)

調査年	『賛成』 （「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）			『反対』 （「反対」＋「どちらかといえば反対」）		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
H17	46.7	43.7	51.7	41.7	45.6	35.6
H22	44.9	40.6	52.0	44.1	47.5	38.4
H27	34.7	31.3	39.3	52.2	54.9	49.5
R2	20.6	15.4	26.6	65.7	71.5	58.4



5. 就労について

(問17) 社会全体で見た場合の女性の働きやすさ

「ある程度働きやすい」46.9%が最も多く、次いで「あまり働きやすいとはいえない」31.7%となっている。前回調査と比較すると、「ある程度働きやすい」が11.8ポイント増加している。

性別でみると、『働きやすい』（「働きやすい」＋「ある程度働きやすい」）と思う割合は男性の方が9.9ポイント高く、男女の認識の違いがうかがえる。

上位1項目

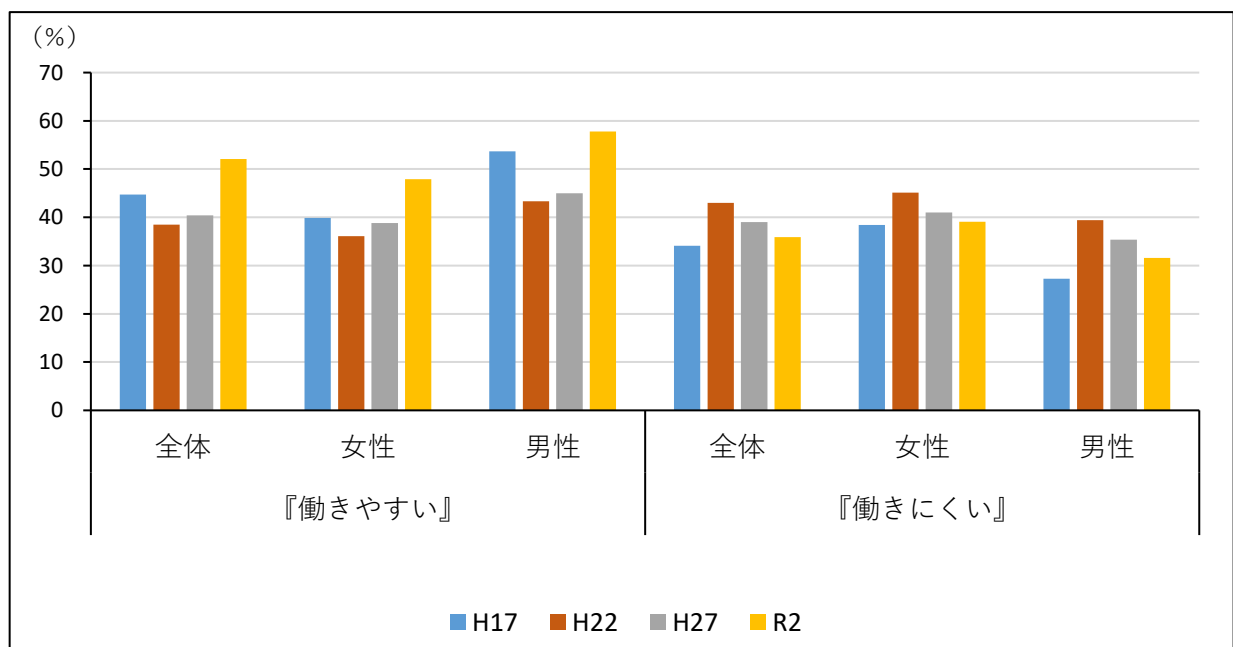
(%)

調査年	働きやすい	ある程度働きやすい	あまり働きやすいとはいえない	働きにくい	わからない	無回答
H17	5.9	38.8	30.9	3.2	12.8	8.3
H22	5.7	32.8	37.9	5.1	12.4	6.2
H27	5.3	35.1	35.0	4.0	13.5	7.2
R2	5.2	46.9	31.7	4.2	8.8	3.3

『働きやすい』・『働きにくい』高い方の値

(%)

調査年	『働きやすい』 (「働きやすい」＋「ある程度働きやすい」)			『働きにくい』 (「働きにくい」＋「あまり働きやすいとはいえない」)		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
H17	44.7	39.9	53.7	34.1	38.4	27.3
H22	38.5	36.1	43.3	43.0	45.1	39.4
H27	40.4	38.8	45.0	39.0	41.0	35.4
R2	52.1	47.9	57.8	35.9	39.1	31.6



6. 教育について

(問21) 子どもに期待する進学先 (R2調査新規項目)

子どもに期待する進学先については、女の子・男の子ともに「大学まで」が最も多くなっているが、女の子が男の子を11ポイント下回っている。性別で見ると、その差は、女性で13ポイント、男性で8.6ポイント、女の子が下回っており、女性の方が女の子に対する期待が低いことがうかがえる。

- | | |
|------------------|----------|
| 1. 高等学校まで | 4. 大学まで |
| 2. 専門学校・各種学校まで | 5. 大学院まで |
| 3. 短期大学・高等専門学校まで | 6. その他 |

上位1項目

(%)

		女の子						男の子					
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6
全体		5.6	8.7	13.7	53.6	3.4	10.6	4.2	4.8	3.9	64.6	7.3	10.5
性・年代別	女性計	4.9	11.0	13.5	51.9	2.5	11.0	3.4	6.1	3.9	64.9	5.8	10.9
	10代	11.1	22.2	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	66.7	11.1	0.0
	20代	5.0	8.3	6.7	55.0	0.0	23.3	5.0	8.3	1.7	60.0	0.0	23.3
	30代	3.8	10.3	11.5	62.8	3.8	6.4	3.8	7.7	7.7	66.7	5.1	6.4
	40代	5.0	6.7	15.0	50.8	1.7	15.8	3.3	5.0	1.7	68.3	3.3	15.0
	50代	5.1	9.4	12.0	56.4	1.7	11.1	3.4	5.1	6.0	65.0	6.0	12.0
	60代	6.4	16.4	10.0	51.4	3.6	5.7	4.3	8.6	2.1	63.6	7.9	5.7
	70歳以上	2.0	13.0	21.0	41.0	4.0	11.0	3.0	3.0	4.0	62.0	9.0	10.0
	男性計	6.7	5.8	13.7	56.3	4.6	9.8	5.2	3.3	4.2	64.9	8.9	9.8
	10代	11.1	0.0	0.0	66.7	0.0	22.2	11.1	0.0	0.0	66.7	0.0	22.2
	20代	11.4	5.7	0.0	71.4	2.9	8.6	8.6	2.9	2.9	74.3	2.9	8.6
	30代	1.9	5.8	9.6	67.3	7.7	7.7	1.9	3.8	5.8	67.3	11.5	7.7
	40代	18.9	3.8	13.2	50.9	1.9	9.4	18.9	1.9	3.8	58.5	3.8	9.4
	50代	9.8	7.3	13.4	52.4	2.4	11.0	7.3	3.7	2.4	64.6	4.9	11.0
60代	0.9	7.7	13.7	55.6	6.0	12.8	0.9	6.8	6.0	62.4	9.4	12.8	
70歳以上	7.6	3.3	19.6	52.2	6.5	5.4	3.3	0.0	2.2	67.4	15.2	5.4	

※その他

- ・本人の希望するところまで
- ・能力次第で良い
- ・やりたいことがあるなら、学歴よりやりたいことを優先させたい など

7. 女性の政策参画について

(問23) 政策・方針を決める際の女性の意見の反映度

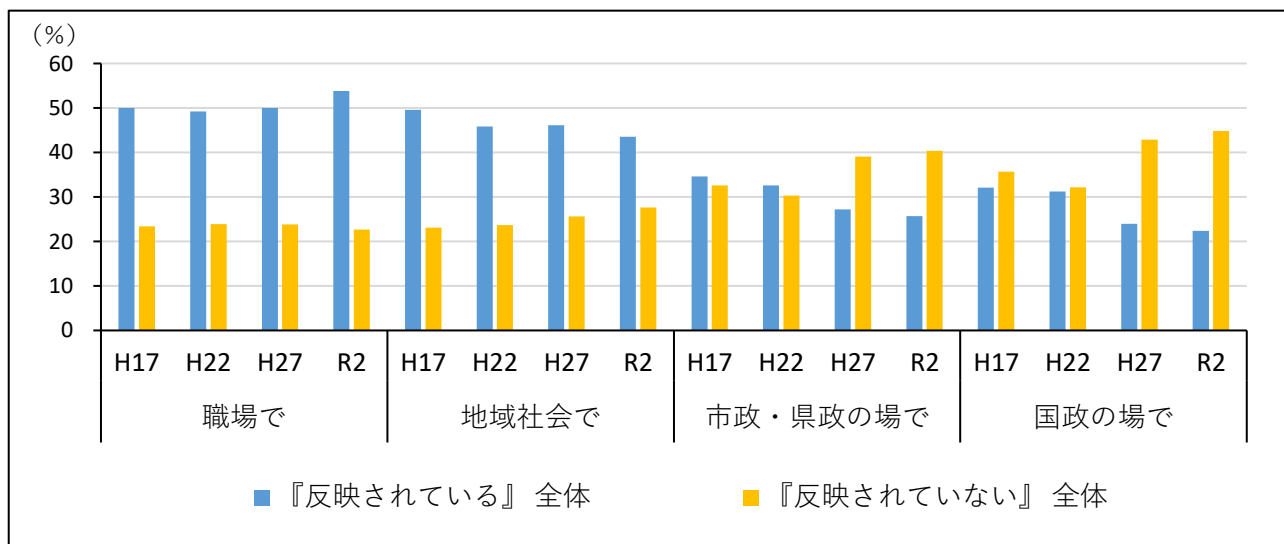
「職場」「地域社会」では『反映されている』（「十分に反映されている」＋「ある程度反映されている」）と感じている人が多く、「市政・県政」「国政」といった政治の場では『反映されていない』（「全く反映されていない」＋「あまり反映されていない」）と感じている人が多くなっている。

性別でみると、『反映されている』と感じている人の割合は、どの分野も女性の方が10ポイント以上下っており、男女の認識の差がうかがえる。

『反映されている』・『反映されていない』高い方の値

(%)

分野	調査年	『反映されている』			『反映されていない』		
		全体	女性	男性	全体	女性	男性
職場で	H17	50.0	44.3	60.3	23.4	25.5	20.3
	H22	49.2	44.2	57.5	23.9	24.2	23.5
	H27	50.0	47.5	55.3	23.8	24.8	23.0
	R2	53.8	49.1	60.1	22.7	22.6	23.5
地域社会で	H17	49.6	43.6	60.7	23.1	25.3	19.3
	H22	45.8	40.9	55.0	23.7	24.6	22.4
	H27	46.1	42.6	53.8	25.6	27.3	23.6
	R2	43.5	37.9	51.2	27.6	27.5	27.9
市政・県政の場で	H17	34.6	29.5	44.3	32.6	35.1	27.8
	H22	32.6	27.3	41.8	30.3	30.6	29.7
	H27	27.2	21.9	37.3	39.1	42.4	35.0
	R2	25.7	20.2	33.5	40.4	39.8	40.9
国政の場で	H17	32.1	26.9	41.8	35.7	38.0	31.9
	H22	31.2	24.6	42.0	32.2	33.3	30.9
	H27	24.0	19.2	33.0	42.9	45.9	39.7
	R2	22.4	16.2	31.4	44.8	44.2	45.3



8. 人権・暴力について

(問26) DVに対する考え方・・・「DVは人権を侵害する行為である」

※ 2次計画の指標

目標値：『思う』（「そう思う」＋「ややそう思う」）が100%

DVは人権を侵害する行為であると『思う』人の割合は96.8%で、前回調査の95.4%をわずかに上回ったが、目標値と比較すると3.2ポイント下回っている。

性・年代別で見ると、男女ともに「70歳以上」、男性では「40代」で、『思う』人の割合が他の年代に比べ低くなっている。

(%)

調査年	そう思う	ややそう思う	あまりそう 思わない	そう思わない	無回答
H17	84.7	6.9	1.8	0.4	6.3
H22	86.8	5.7	1.7	0.9	4.9
H27	91.0	4.4	0.9	0.6	3.2
R2	92.4	4.4	0.7	0.5	2.0

(%)

調査年	『思う』 （「そう思う」＋「ややそう思う」）	『思わない』 （「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）
H17	91.6	2.2
H22	92.5	2.6
H27	95.4	1.5
R2	96.8	1.2

(%)

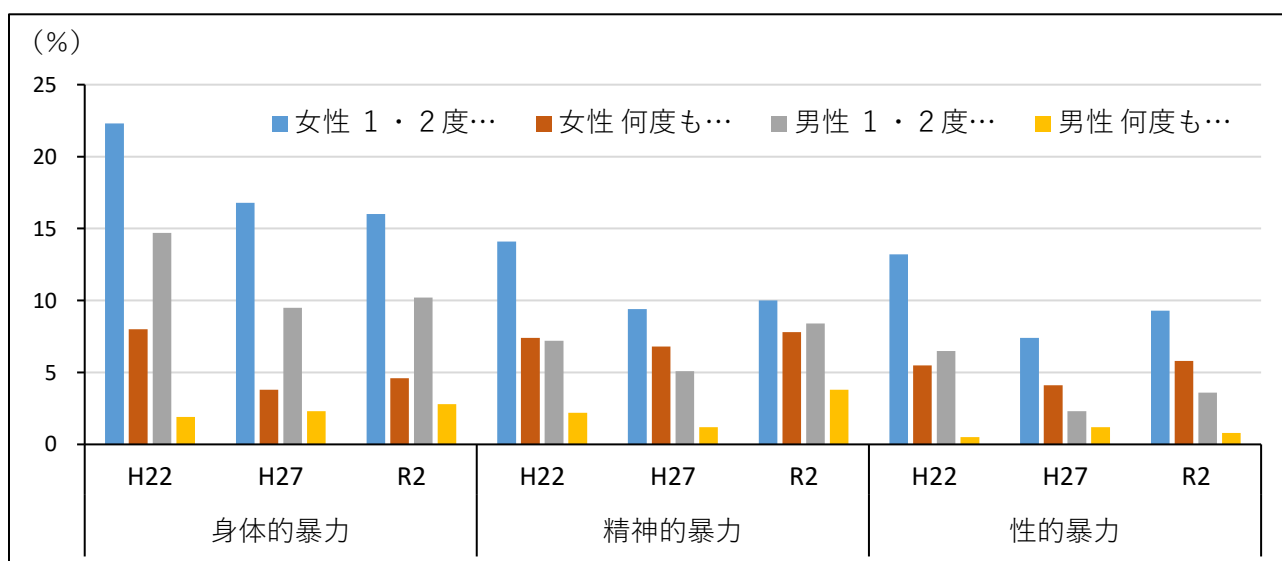
R2調査		『思う』 （「そう思う」＋「ややそう思う」）	『思わない』 （「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）
性・年代別	女性計	97.0	1.0
	10代	100.0	0.0
	20代	100.0	0.0
	30代	100.0	0.0
	40代	99.2	0.0
	50代	97.5	1.8
	60代	97.9	0.7
	70歳以上	90.0	4.0
	男性計	96.9	1.4
	10代	100.0	0.0
	20代	100.0	0.0
	30代	98.1	1.9
	40代	94.4	5.7
	50代	100.0	0.0
60代	98.3	0.9	
70歳以上	93.5	1.1	

(問27) (1) 配偶者等からのDV被害経験の有無

配偶者（結婚していないが一緒に暮らしている場合も含む）からの暴力の被害経験について、身体的暴力は女性で約5人に1人、男性で約8人に1人、精神的暴力は女性で約6人に1人、男性で約8人に1人、性的暴力は女性で約7人に1人、男性で約28人に1人、経済的暴力は女性で約9人に1人、男性で約30人に1人が経験していると回答している。

(%)

種類	調査年	女性		男性	
		1・2度あった	何度もあった	1・2度あった	何度もあった
身体的暴力	H22	22.3	8.0	14.7	1.9
	H27	16.8	3.8	9.5	2.3
	R2	16.0	4.6	10.2	2.8
精神的暴力	H22	14.1	7.4	7.2	2.2
	H27	9.4	6.8	5.1	1.2
	R2	10.0	7.8	8.4	3.8
性的暴力	H22	13.2	5.5	6.5	0.5
	H27	7.4	4.1	2.3	1.2
	R2	9.3	5.8	3.6	0.8
経済的暴力	H22	—	—	—	—
	H27	—	—	—	—
	R2	6.9	4.8	1.3	2.0



9. 男女共同参画に関する用語について

(問33) 用語の認知度

※ 2次計画の指標 (No.7~9)

目標値：『知っている』（「言葉も内容も知っている」＋「言葉だけは知っている」）が
(No.7) 100%、(No.8) 30%、(No.9) 60%

指標に設定しているNo.7~9の認知度（『知っている』）について、前回調査（H27）は上回っているが、No.7と8は目標値に対して大きく下回っている。

No.3「男女雇用機会均等法」とNo.7「ジェンダー」については、「言葉も内容も知っている」の割合が多くを占めている。

今回新たに追加した、No.11「SOGI（ソジ）」については、「言葉も内容も知らない」が8割を超えている。

上位1項目

(%)

No.	用語 (※：R2調査新規項目)	言葉も内容も知っている	言葉だけは知っている	言葉も内容も知らない	無回答
1	男女共同参画基本法	25.5	51.0	19.6	3.9
2	女子差別撤廃条約	16.1	45.5	34.2	4.2
3	男女雇用機会均等法	59.8	33.4	3.3	3.6
4	配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）	39.2	47.0	9.8	4.0
5	女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法） ※	11.5	44.2	39.6	4.7
6	ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	6.4	25.2	64.1	4.3
7	ジェンダー (社会的・文化的に形成された性別)	40.8	31.7	23.3	4.2
		72.5 (前回46.5)			
8	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康と権利)	4.3	13.2	78.5	4.0
		17.5 (前回12.3)			
9	ワーク・ライフ・バランス	27.3	27.3	41.2	4.2
		54.6 (前回36.9)			
10	ダイバーシティ	16.8	28.9	50.3	3.9
11	SOGI（ソジ） ※	2.8	8.0	85.1	4.1
12	鹿児島市男女共同参画計画	9.3	42.0	44.6	4.1
13	鹿児島市男女共同参画条例	8.5	38.8	48.5	4.2